

2012年11月23日  
N. N. スタジオ

## アルゼンチン／ウルグアイの吟遊詩人たち



「吟遊詩人」という日本語は、かなり新しいもので、明治時代にはまだなかったと思われまふ。デンマークのアンデルセンの自伝的小説 *Improvisatore* (1935年)を、森鷗外は『**即興詩人**』と訳していました(明治35=1902年)。

吟遊詩人は、辞書には「詩曲をつくり、各地を訪れて歌った人々」という、かなり漠然とした定義がのっています。元来は、11世紀に南フランスに登場した宮廷の恋愛詩人 **troubador** (当時の南フランス言語の発音でトルバドール)のことだったのでしょう。当時は、詩を作る人と歌う人は別だったとか……

スペイン語では **trovador** です。この存在も、時代とともに形が変わってきたので、日本語「吟遊詩人」と訳して問題ないでしょうね。

トロバドールは、宮廷には入れない、民衆の側の人たちで、権力にしばられず、住所不定でさすらう……というイメージです。

アルゼンチン、ウルグアイでは、**パジャドール payador** という存在が吟遊詩人の典型です。ある、ひとつのテーマについて、ふたりのパジャドールが即興の詩で応酬しあい、勝負を決める歌試合が行われていました。詩を語るだけでなく、必ず自分でギターを弾いて伴奏しました。19世紀のはじめ、これらの地方が、スペイン国王の領土であることをやめようとする独立運動が起こった時代から、パジャドールの存在が注目されるようになりました。

ウルグアイでは、国の条例で、8月24日を「パジャドールの日」と定めています。これは、バルトロメー・イダルゴ *Baltolomé Hidalgo* (1788年 モンテビデオ生まれ～1822年 ブエノスアイレス州モローンで没)の誕生日です。彼は、ウルグアイ独立の熱意に燃えた攻撃的な詩をたくさんつくりました。

アルゼンチン各地では、7月23日が「パジャドールの日」です。1884年のこの日に、アフリカ系アルゼンチン人である **ガビーノ・エセイサ Gabino Ezeiza** (1858-1916)が、ウルグアイの首都モンテビデオの劇場で、超満員の観客の前で、高名なウルグアイ人パジャドール、**フワン・ナバ Juan Nava** を、歌合戦で破った日です。

もっとも有名なパジャドールは、アルゼンチン人 **サントス・ベガ Santos Vega** です。1830年ごろ実在したことは確かですが、物語詩や、劇、映画で、彼の神話ができあがりました。悪魔との歌試合に敗れて死んだ(悪魔以外は彼に勝てなかった)ことになっています。

19世紀の末には、パジャドールがギターでつくったメロディが、ひとつの「曲」として広く流布することもありました。20世紀はじめには、パジャドールの作詞作曲したものが、今日でいう「ヒット曲」になったり、吟遊詩人なのにポピュラー音楽のアーティストなみの人気者が生まれ、やがては60年代のシンガー・ソングライターたちに、パジャドールの芸術がの精神やスタイルが受け継がれてゆくようになります。

### 第1部 高場 将美 (はなし)

#### 1. パイサンドゥーに敬礼 *Saludo a Paysandú*

詩・曲：ガビーノ・エセイサ *Gabino Ezeiza*

ガビーノ・エセイサ (うた・ギター)

#### 2. かわいそうな わたしのお母さん *Pobre madre querida*

詩・曲：ホセー・ベティノッティ *José Betinotti*

ホセー・ベティノッティ (うた・ギター)

#### 3. ラ・マリポーサ(蝶々) *La mariposa*

詩：アンドレーヌ・セペーダ *Andrés Cepeda*

曲：カルロス・ガルデール *Carlos Gardel*

カルロス・ガルデール (うた)

ギター：アギラール／バルビエーリ／リベロール *Aguilar-Barbieri-Riverol*

#### 4. あの峠の思い出 *Recueros del portezuelo*

作詞作曲・アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*

アタウワルパ・ユパンキ (うた・ギター)

## 5. 南の歌い手 *Cantor del Sur*

詩・曲・アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*  
アタウワルパ・ユパンキ (語り・ギター)

## 6. わたしの息子よ、神の救いを *Dios te salve, m'hijo*

詩：ルイス・アコスタ・ガルシア *Luis Acosta García*  
曲：マガルティ＝ノダ *Magaldi-Noda*  
フーリオ・ソーサ (うた) *Julio Sosa*  
フランシスコ・ロトゥンド楽団 *Francisco Rotundo y su Orquesta Típica*

## 7. オメーロ *Homero* 詩：フリアーン・センテージャ *Julián Centeya* フリアーン・センテージャ (語り)

## 8. やってくる彼女を見た *La vi llegar*

作詞：フリアーン・センテージャ *Julián Centeya*  
作曲：エンリーケ・フランチェニ *Enrique Mario Francini*  
ミゲル・カロー楽団 *Miguel Caló y su Orquesta Típica*  
うた：ラファエル・イリアルテ *Rafael Iriarte*  
第1ヴァイオリン：エンリーケ・フランチェニ

## 9. 花咲くオレンジの木 *Naranjo en flor*

作詞：オメーロ・エスポーシト *Homero Expósito*  
作曲：ビルヒーリオ・エスポーシト *Virgilio Espósito*  
グスターボ・ノチェッティ (うた) *Gustavo Nocetti*  
フェデリーコ・ガルシア・ビヒール指揮 モンテビデオ市立管弦楽団  
*Orquesta Sinfónica Municipal de Montevideo, dir. Federico García Vigil*

## 10. ミロンガ・コラレーラ *Milonga corralera*

詩：クペルティエーノデル・カンボ *Cupertino del Campo*  
曲：オマール・モレーノ・パラシオス *Omar Moreno Palacios*  
オマール・モレーノ・パラシオス (うた・ギター)

## 11. どの生まれでもなく *No soy de aquí, ni soy de allá*

詩・曲：ファクンド・カブラール *Facundo Cabral*  
ファクンド・カブラール (うた・ギター)

## 第2部 峰 万里恵 (うた) 高場 将美 (ギター)

### 1. 石と道 *Piedra y camino*

作詞作曲：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*  
山からわたしは下りてきた——道と石。わたしは 持ち歩いている (わたしの命のひと) 魂にからみついた ひとつの悲しみを。  
わたしがあなたを愛しないと あなたはわたしを責める。それは言わないでください。たぶんあなたには決してわからないかも (わたしの命のひと) なぜわたしが遠ざかってゆくのか。

わたしが幸せを捜し求めれば求めるほど、わたしは悩みながら生きる。そしてそこにとどまらなければいけないときに (わたしの命のひと) わたしは歩き去ってゆく。

ときには わたしは川のような。うたいながらやってくる。そして だれにも気づかれぬように (わたしの命のひと) わたしは泣きながら去ってゆく。

それがわたしの運命——石と道。

遠い 美しい夢をめざす (わたしの命のひと) わたしは巡礼者。

### 2. あの古い愛のトナーダ *Tonada del viejo amor*

作詞：ハイメ・ダバロス *Jaime Dávalos*  
作曲：エドゥワルド・ファルー *Eduardo Falú*  
そして決して わたしはあなたを忘れないでしょう——砂の上にあなたは書いた。風がそれを消しながら行った。そしてわたしは もっとひとりぼっちになった、海を見ながら。

なんとすばらしい あのいつかの時、真昼の太陽の下。あなたの口はキスのなかに開いた、ダマスコ(あんず・アプロコットの1種)のように 蜜でいっぱい。

わたしはふたたび あなたを見たい——水泡を前にほほえんでいるのを。風に放たれたあなたの髪、小麦と光の 奔流のように。

わたしは知っている、もう あなたがわたしを愛していた夏が帰ってこないことを。忘却は深く黒いものだという。そして 秋が ころろに入ってくることを。

傷、あなたの口の傷、それは痛みもなく人をさいなむ。

わたしは冬は怖くない——太陽がいっぱいの あなたの思い出と いっしょにいるから。

### 3. 単純なことどもの歌 *Canción de las simples cosas*

作詞：アルマンド・テハーダ・ゴメス *Armando Tejada Gómez*

作曲：セサル・イセーラ *César Isella*

人は別れてゆく、自分では感じないうちに、ちいさなものと。まるで1本の木のように——それは秋には、その葉たちがいなくなって取り残される。

けっきょくは、悲しみとは 単純なものごとたちの ゆっくりした死。……あの単純なものごとたち。彼らは痛みながら残る、こころの中に。

人はいつも帰ってくる、彼が生きることを愛した 古い場所へ。そしてそのとき理解する、愛したものごとたちが いなくなっているさまを。

だから、若者よ、いま発っていかないで。帰ることを夢見て。

愛は単純なもの。そして単純なものごとたちは 時に呑みこまれてしまう。

ここに まだ ぐずぐずしていなさい。この真昼の 最大の光の中に。ここにあなたは見つけるでしょう、太陽のものとパンとともに 広げられたテーブルを。

人は別れてゆく、自分では感じないうちに、ちいさなものと……

#### 4. じぶんの土地へのセレナータ

##### *Serenata para la tierra de uno*

作詞作曲：マリーア・エレナ・ワルシュ *María Elena Walsh*

わたしは ここに残っていれば痛いから、でも去って行けば 死んでしまうから、こんなことすべてゆえに——こんなことすべてがあっても、わたしの愛よ わたしはおまへのなかに生きたい。

ビダーラの歌のような おまへの節度の正しさゆえに、太陽のような おまへの不品行ゆえに、ジャスミンのあるおまへの夏ゆえに、わたしの愛よ わたしはおまへのなかに生きたい。

おまへの昔からの反抗精神ゆえに、そしておまへの痛みの年令ゆえに、おまへの終わることない希望ゆえに、わたしの愛よ わたしはおまへのなかに生きたい。

おまえにギターの種類をまくために、花のひとつずつにおまへの世話をするために、そしておまえを痛めつけるものを憎むため、わたしの愛よ わたしはおまへのなかに生きたい。

なぜなら 子どものころのことばは、わたしたちのあいだの ひとつの秘密だから。なぜなら おまえは わたしの心が根を抜かれたときに守ってくれたから。

#### 5. わたしの息子よ *Hijo mío*

作詞：オラーシオ・フェレル *Horacio Ferrer* 作曲：ハイロ *Jairo*

\* 作者たちの友人にプレゼントした曲で、もとの題は『わたしの娘よ』だったようです。ウルグアイの大歌手グスターボ・ノチェッティのヴァージョンを採りました。

わたしの息子よ、おまへの空想をなくさないで。子ども時代のお祭りは もう帰ってこない。1日ごとがちっちゃな一生。そして人はふたたび生まれる、目が覚めるときに。

わたしの息子よ、夢を見よう、たくさん夢を見よう。現実を喜ばせてやらないようにしよう。おまえの中で おまえの神様がおまえだけに言うだろう、どこに善があるか どこに悪があるかについて。

わたしの息子よ、人生は簡単なことではない。そして、うまく生きられなかったことから どんな恨みも生まれるのだ。悲しくしていることは とても品格のあること。でもいつも わたしたちに付き添ってくれる、大きな喜びの権利が。

わたしの息子よ、人生は荒く 傷つける。そして生きるときの過ちひとつや正解ひとつは どちらでもいい、自分の星たちにこう言える者には——「失礼します、ありがとう、ごめんね」

わたしのかわいい息子、決してけんかしてはいけない。誰が正しいかというようなことは あまり価値のないことだ。さまざまな感情は、人間であるがゆえに、こころが考えることどもなのだ。

わたしの小さな子、わたしの魂の魂、おいで、わたしを抱いておくれ。なぜなら愛は ことば——いちばんうまく言えることば、わたしたちに すべてを、おまえとわたしのことすべてを。

#### 6. バルデラーマ *Balderrama*

作詞：マヌエル・J・カスティージャ *Manuel J. Castilla*

作曲：クチ・レギサモン *Cuchi Leguizamón*

\*《バルデラーマ》は、50年ほど前サルタ市にあった(今もあるが、観光客のためのフォルクロレ・ショーの店に変わってしまった)酒場・食堂の名前です。

水路のほとりに 朝がやってくるとき、夜がうたいながら出てくる、バルデラーマの店から。／ 店の中は ただただ震動、山唄といっしょのボンボ。そして燃えながら乱れ騒ぐ ギターよ、火花を散らせ。

もしだれかが うたいはじめれば、馬車ひきがいっしょにうたう。そしてワインのコップのひとつずつの中に、明けの明星がふるえる。／ 夜明けのサンバ。バルデラーマのざわめき。真夜中にはうたっている、夜明け前には泣いている。

明星……ひとりぼっち……暁の芽生え。

わたしたちの行く先はどこになるのだ、もしバルデラーマが消えてしまったら！

第2部選曲・構成：峰 万里恵 プログラム作成：高場 将美